

令和 7 (2025) 年度

緊急時対策マニュアル



シンガポール日本人学校クレメンティ校

目次

1 防災計画

（１）目的および内容について

（２）災害に対する心得

（３）避難要領

（４）クレメンティ校防災組織

（５）避難経路

（６）避難場所

2 不審者侵入（テロ）対応

3 けが・事故等の対応

4 下校バス緊急時対応

5 ヘイズ対応

1 防災計画

(1) 目的及び内容について

- ・この計画は、シンガポール日本人学校クレメンティ校における防災管理業務について、必要な事項を定め、火災、電気事故、不審者（テロ）等による災害を予防し、人命の安全を確保するとともに、これらの災害による物的被害の軽減を図ることを目的とする。
- ・この計画は、シンガポール日本人学校の児童・職員・PTA及び出入りする者または、臨時に本校を使用する外部者すべてに適用するものとする。
- ・防災管理者は教頭があたり、この計画について一切の権限を有し次の業務を行うものとする。
 - ① 防災計画の作成
 - ② 消火、通報、避難訓練の実施（生徒指導部・防災指導係に依頼）
 - ③ 建物、電気施設及び火気使用設備の検査及び監督
 - ④ 消防用設備等の点検整備の実施及び監督
 - ⑤ 火気使用または取り扱いに関する指導監督
- ・平素における火災の未然防止を図るため、各棟及び各階、各室ごとに防火責任者を定める。
- ・人命安全確保を図るため避難経路を常に確保する。
- ・防火責任者は、人命の安全を確保するため、各棟及び各階、各部屋ごとの消防用設備等の設備位置及び屋外に通じる避難経路を明示した避難経路図を作成して、児童、職員または出入りする者に周知徹底する。
- ・火災が発生した場合は、初期消火に主眼を置き消防活動を行う。
- ・避難する際は、次により避難誘導にあたるものとする。
 - ① 出火場所に応じ、次に掲げる場所を最優先すること。
 - ア 出火場所が2階以上の場合は、出火階及びその直上階
 - イ 出火場所が1階の場合は、1階、2階及び地階
 - ウ 出火場所が地階の場合は、出火階、その直上階
 - ② 出火場所の上層階は、出火場所の反対側の階段を使用し、出火場所以下の階層は近くの階段を使用しグラウンドに避難する。
 - ③ 避難終了後は、速やかに人員点呼を行い、逃げ遅れたものの有無を確認し、その結果を、防災管理者（教頭）に報告する。
- ・避難場所は、別表の通り指定する。
- ・防災管理者は、児童、職員に対し防災教育を実施するものとする。
 - ① 防災計画の周知徹底
 - ② 日常の火災予防
 - ③ 災害発生時における職員の任務分担

(2) 災害に対する心得

<校内から出火の場合>

児童が在校中のとき

- ① 消防署（995）へ通報
- ② 非常合図を発令、避難行動開始
- ③ 状況判断の上、消火を行う
- ④ 確実な避難を確かめた後、搬出作業を行う
- ⑤ 非常持は出席簿を持ち込む。

児童が下校後のとき

- ① 消防署（９９５）へ通報
- ② 現場に居合わせた職員は適切な処置をとる
- ③ 搬出物は前項に準ずる

＜近くからの出火の場合＞

- ① 状況判断をし、避難等の処置をとる
- ② 校舎の防火体制をとる
- ③ 重要書類の搬出体制をとる
- ④ その他は校内出火の要領に準じる

（３） 避難要領

- ① 緊急放送で状況説明、避難指令
- ② 緊急放送が入ったら学習を中止し、静かに放送を聞き、状況を確認する。
- ③ 担当教諭（専科も含む）は、人員を把握し、避難要領を指示する。
- ④ 担当教諭（専科も含む）は、全体を掌握できる位置に付く。
- ⑤ 担当教諭によって避難誘導する。

避難時は、児童名、在籍数を確認できる名簿等を担当教諭が持って避難する。

- ⑥ 避難口に近い学級から定められた通路、階段、非常口を利用して非難する。
- ⑦ 避難中は、「お・か・し・も」を徹底する。

お・おさない か・かけない し・しゃべらない も・もどらない

・火災の時は窓を閉めてから避難する

・ハンカチ等で口を押さえ、校舎内は低い姿勢で避難する

- ⑧ 避難口が混雑しないよう、教師は交通整理をする。
- ⑨ 列を乱さないで、校舎を出たならば小走りで所定の避難場所に集まり整列する。
- ⑩ 人員点呼、事故の有無を点検し、報告する。

～報告の流れ～

担任 → 学年主任 → 教頭 → 校長

※学年主任が不在のときは、各学年で報告する担当を決めておく。

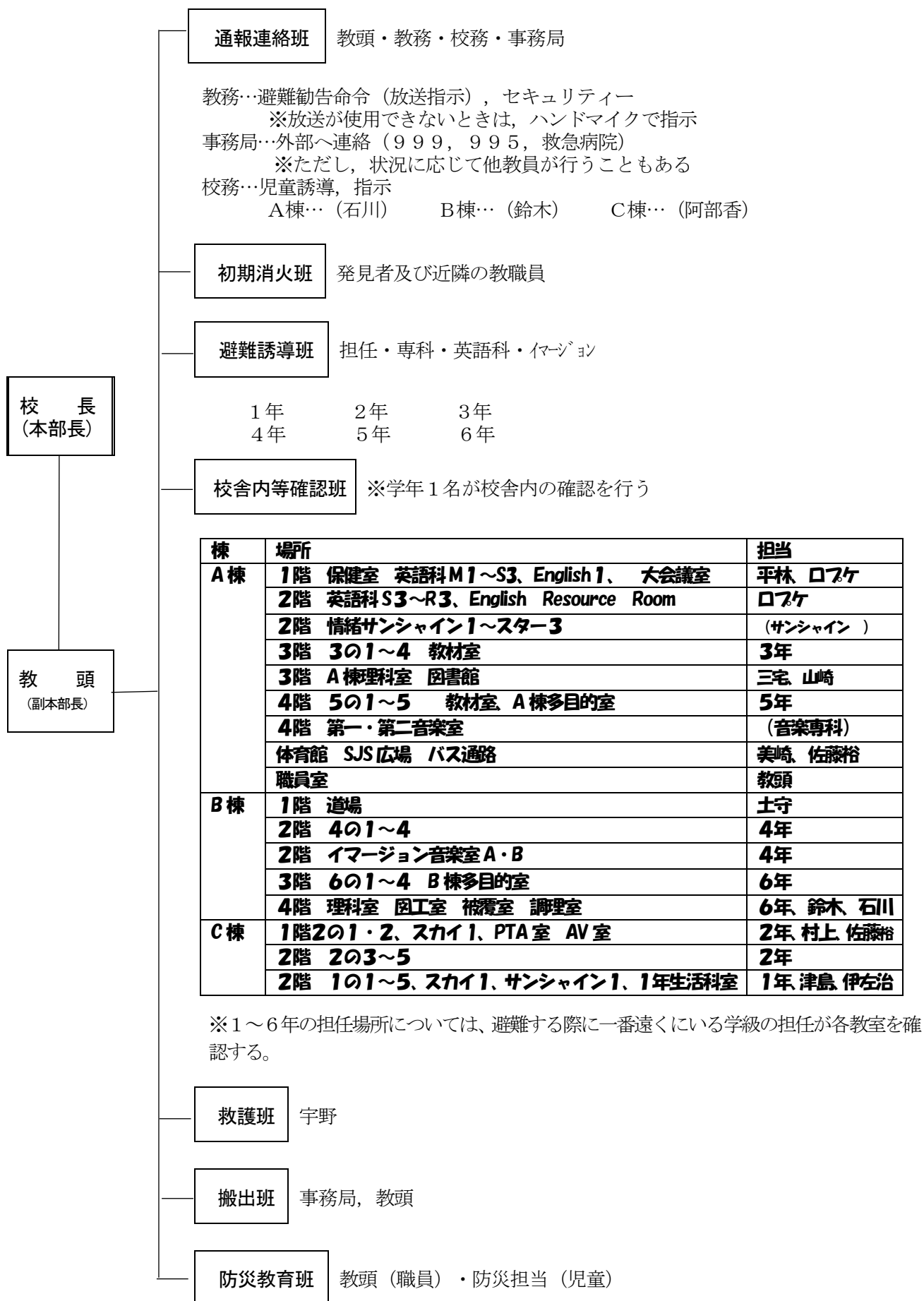
～報告内容～

担任 → 学級の ①在籍数 ②欠席数 ③現在数 ④異常等

学年主任 → 学年の ①在籍数 ②欠席数 ③現在数 ④異常等

※授業時間以外の場合は、教師は直ちに所定の位置につく。特に、避難場所担当者は児童の多く集まっている場所に急行する。

(4) シンガポール日本人学校クレメンティ校防災組織



(5) 避難経路

(1) 避難経路全体図（省略）

(2) 基本避難経路

A経路 大会議室、オフィス、

B経路 S J S 広場、4 の 1 ～ 5、1 の 1 ～ 5 スカイ 1、
第 1 ・ 2 音楽室、A 棟多目的室、

C経路 3 の 1 ～ 5、児童会室、A 棟理科室、サイエンスラボ、図書館、教材室1
スター 1 ～サンシャイン 2、保健室、体育館、
英語科教室（M1 ～R 3、English Resouce Room、English 1）

D経路 道場

E経路 5 の 1 ～ 4、イマージョン音楽室

F経路 2 の 1 ～ 5、スカイ 2、1 年生活科室、PTA 室

G経路 6 の 1 ～ 4、多目的室B、被服室、調理室、図工室、B 棟理科室

※ A、B 経路を使用するクラスは、バス通路からグラウンドに降り、できるだけ早く
集合場所に到着できるように配慮する。

(6) 避難場所（グラウンドでの集合隊形）

省略

2 不審者侵入（テロ）への対応

（１）危険性の種別による対応

①児童に危険が差し迫っている場合（凶器などの所持）

〈警察による対応。早急に児童の避難・誘導が必要〉

○管理職・事務局

- ・警察・諸機関への連絡
- ・児童の避難指示
- ・侵入者への対応

○教頭・教務

- ・避難後の人員確認

○教員

- ・児童の安全確保と避難誘導

○セキュリティ

- ・児童と不審者の隔離

②児童に危険の可能性がある場合（危険性の予知）

〈警察による対応。安全を確かめながら学習の継続〉

○管理職・セキュリティ

- ・退出まで理解を求め、校門まで誘導

○教員

- ・児童の安全確保、授業の継続、児童の動揺を静める
- ・状況に応じては全体で対応

③児童の危険性なし

〈管理職・セキュリティで対応〉

○管理職・セキュリティ

- ・丁寧に対応、用件を尋ね、所定の手続きを求める
- ・校門まで誘導する

（２）不審者の侵入（テロ）の際の教室での教師の動き

①校内放送もしくは目視で不審者を確認。

②児童を廊下側ドアの窓から見えない場所に誘導する。

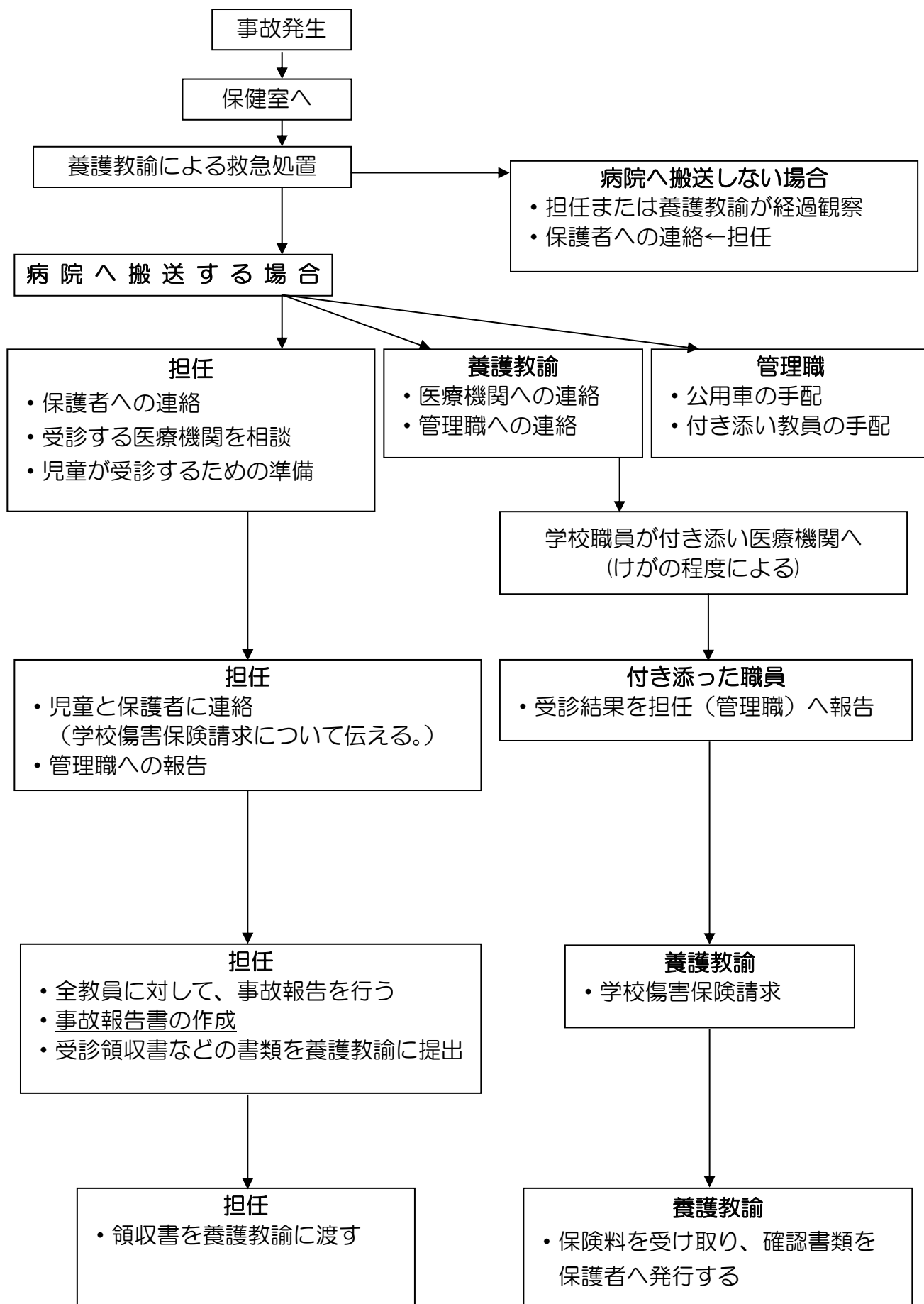
③その間にドアを施錠し、カーテンやブラインドを閉め、電気、テレビ等を消す。

④教師は廊下側ドアの窓から見えない場所で待機する。児童に音をたてないよう指導する。

⑤教師はipadを持ち、適宜他の教室と連絡を取り合う。

⑥不審者確保の連絡があるまでその状態を保つ。

〈けが、事故時の対応の流れ〉



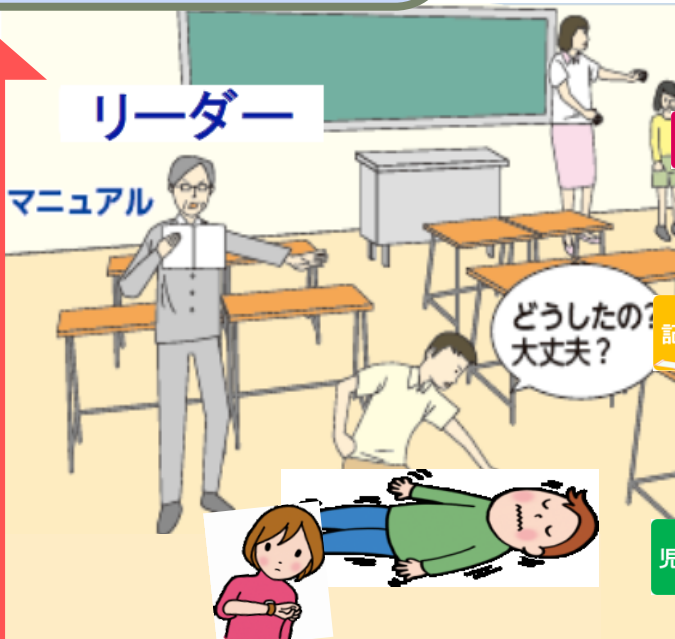
緊急時の役割分担及び対応マニュアル

リーダー（校長・教頭）

- 現場に到着後リーダーとなる
- 発見者から報告を受けすべてを把握する
- 近くにいる職員に指示をする
（準備担当・児童担当・記録担当・保護者への連絡担当）
- 心肺蘇生・AEDの使用/介助

指示をうけた職員

リーダーに子どもの様子を報告



準備担当

- 担架(必要時)
- AED
- 症状チェックシートなど



記録担当

- 発見者・観察者からの報告と時間を記録
- この用紙にチェックする
- 症状チェックシート(別紙)

児童担当

- ほかの児童を安全な場所へ移動させて、落ち着かせる

保護者への連絡担当

- 救急搬送先を保護者へ連絡

発見者／養護(観察/処置)

- リーダーが来るまでリーダー代行
- 発見した時間を記録しておく(:)
- 大声で応援を呼ぶ(:)
- 近くにいる児童にほかの職員を呼びに行かせる。
「〇〇先生が〇〇の場所に急いで来てくださいと言っています。」(:)
職員室へ(2~3人)
保健室へ(2~3人)
- 児童を安全な場所に移動させ、ほかの職員が来るまで動かないように指示する
- 症状の観察・緊急性の判断
- 児童に声をかけ続ける(けいれんしているときは声かけしない)
- 症状別チェックシートに従い、処置の必要性を判断
- 心肺蘇生・AEDの使用/介助

応援の職員

近くにいる職員・応援の職員

- 管理職へ報告
- オフィスに救急車を要請する
- ほかの応援の職員を連れ現場へ戻る



オフィススタッフ

- 救急車要請
- セキュリティに救急車の誘導を依頼



救急車は

995

症状チェックシート（けいれん）

年	月	日	曜日	時	分	記入者：
年		組	名前			
発見時刻			時 分ごろ			
止まった時刻(止まった場合)			時 分ごろ			
救急車要請時刻			時 分			
何をしていたか？			☐ 授業中（教科： ） ☐ 休み時間（ ） ☐ その他（ ） ☐ 外傷後（転倒・転落・衝突・その他： ） ☐ その他（ ） 場所 ☐ 教室 ☐ 特別室 ☐ 体育館 ☐ 校庭 ☐ その他の場所（ ）			
目の様子(眼球の様子)			☐ 1点をみつめる ☐ 白目をむいている ☐ 右に寄っている ☐ 左に寄っている			
手足の様子			☐ だらんとしている ☐ 力を入れて突っ張ってる(エビ反りになる) ☐ 左右対称 ☐ 非対称(右・左) ☐ ガクガク動かしている ☐ 左右対称 ☐ 非対称(右・左)			
肌・唇の色			☐ 青紫色 ☐ 青白い ☐ 土色 ☐ 変化なし			
その他			☐ 尿失禁あり ☐ 便失禁あり ☐ おう吐物あり（ ） ☐ から泡が出ている			
バイタルサイン			体温 脈拍 呼吸 血圧 血中酸素飽和度(Spo2)			
意識状態			I 刺激しなくても覚醒している状態 3 視線が合わない 2 刺激に対して表情の変化はないが視線は合う 1 刺激に対して表情の変化はあるが不十分 0 正常 II 刺激をすると覚醒する状態(刺激を止めると眠り込む) 30 呼びかけをくりかえすとかろうじて覚醒する 20 大きな呼びかけると目を開け、呼びかけているほうを向く 10 普通の呼びかけで目を開ける III 刺激しても覚醒しない状態 300 痛み刺激にも反応しない 200 痛み刺激に少し手をうごかし、顔をしかめる 100 痛み刺激に対して、払いのけようとする動作をする			

アナフィラキシー症状発症時チェックシート

月 日 クラス 名前

観察開始時間(:)以降 5分ごとに症状チェック！

2回目以降の観察時間を記載

	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
全身症状	☐ (:)ぐったり ☐ (:)意識もうろう ☐ (:)尿や便をもらす ☐ (:)脈がふれにくい/不規則 ☐ (:)唇や爪が青白い										
呼吸症状	☐ (:)のどや胸がしめつけられる ☐ (:)声がかすれる ☐ (:)犬がほえるような咳 ☐ (:)息がしにくい ☐ (:)持続する強いせき込み ☐ (:)ゼーゼーする呼吸										
消化器症状	☐ (:)持続する強いお腹の痛み (がまんできない) ☐ (:)吐きつづける										
粘膜症状	☐ (:)顔全体のはれ ☐ (:)まぶたのはれ										
皮膚症状	☐ (:)強いかゆみ ☐ (:)全身に広がる蕁麻疹 ☐ (:)全身が赤い										

(:)には時間を記入

上記の症状が
ひとつでも
あてはまる場合

ひとつでも
あてはまる場合

☐ただちにエピペン®使用
 (:) (実施者 :)
☐救急車要請
 (:)

反応呼吸なし

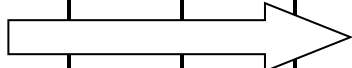
☐エピペン®準備を準備・症状悪化がみられ
 る場合は使用
 (:) (実施者 :)
☐早退/速やかに受診する
 (救急車要請可)

☐心肺蘇生・AED(:)

記録係

事故報告書

この順番で回してください。

担任	養護	保健主事	教務	教頭	校長
					

記載年月日 20 年 月 日

記載責任者（ ）

		組		氏 名 NAME	
事故発生月日 DATE	月 日 曜 MONTH DAY WEEK				
発生時間 TIME	時 分 頃 HOUR MINUTES		教育課程上の位置づけ 授業中（ ）・休み時間・（ ）		
発生場所 PLACE			天候 WEATHER		
事故内容 けがの状況 DETAIL					
相手がいた場合の事故	相手児童名 年 組氏名		相手のけがの有無 （ ）		
児童の状態 CHILD' S CONDITION	(詳しく)		児童の日常の状態 ・ 良好 (No Problem) ・ その他		
その場の処置 TREATMENT					
その後の経過 PROGRESS 保護者との対応・クラスでの指導					
病 院 名					

teacher 2022→32保健→01 事故報告書のフォルダに原本があります。

緊急連絡先一覧

【省略】

クレメンティ校下校バス緊急時対応

【第1報】バス組合から事故発生報告

【本部：校長，教務主任，バス主任，防災主任】

- ・バス主任は座席表をAO印刷 → 当該バス担当が当日の乗車状況を記入
- ・乗車状況の確認完了後，校長は現地チーム【教頭・校務主任・当該バス担当・英会話担当】を派遣

【本部：校長】

当該バス乗車児童の担任に家庭への連絡を指示
※報告文は教務が作成し，LineWorks で流す

【現地チーム】

校長の指示を受け，名簿を持ち現地へ急行（公用車 or タクシーを利用）
教頭はバス緊急時持ち出しバック持参
《現地⇄本部の連絡は教頭⇄教務に一本化》

【職員室：各担任】

《家庭への第1報》

- ・当該バス乗車児童の学年が各家庭に連絡（兄弟がいる場合は長子の学年が一括連絡）
- ・連絡内容はLineWorksを参照
- ・バス座席表（当該バス担当が用意）とバスキャッチシステムで乗車児童を確認

【第2報】現地チームより詳細報告

【現地：教頭】

到着後，状況を本部に連絡

- ・事故の状況
- ・緊急搬送された児童名・児童数及びその搬送先
- ・代用バスで病院へ行く児童数・児童名
- ・病院への応援職員派遣の要否を判断し本部に要請

⇒状況に応じて画像送信を行う
※校務主任，当該バス担当，英語担当は代用バス搬送児童とともに病院へ
⇒病院内に現地対策本部を設置

【本部：校長】

現地からの情報が入り次第，当該バス乗車児童の担任に家庭への第2報を指示
※報告文は教務が作成し，LineWorks で流す

【職員室：各担任】

《家庭への第2報》

- ・当該バス乗車児童の担任が各家庭に連絡（兄弟がいる場合は長子の担任が一括連絡）
- ・連絡内容はline worksを参照

本部長の指示により解散・帰校

ヘイズの対する対応について

令和5年（2023） 5月12日

シンガポール日本人学校 校長会

シンガポールでは「ヘイズ」が時々発生し、市民生活・学校での活動への影響が心配されます。児童・生徒への健康被害を防ぐため、シンガポール日本人学校校長会として政府関係機関が示す下記の表を参考にして以下のような対応をおこなっていきます。

1 PM2.5 が 56～150 または PSI が 101～200 の場合

- ① 小学部では、3時間の平均 **PSI が 130 を超える場合には**屋外での運動（水泳も含む）を控えます。屋内での運動は実施します。（PSI130 は PM2.5 濃度の 83.5 に相当）
中学部では、屋外での長時間の運動または激しい運動を控えます。

2 PM2.5 が 151～250 または PSI が 201～300 の場合

- ① 小学部・中学部ともに、屋外での運動（水泳も含む）を控えます。屋内での運動は実施します。
② 必要に応じて N95 等高機能マスク等の着用を推奨します。

3 PM2.5 が 251 以上または PSI が 301 以上の場合

- ① 政府関係機関の指示に従います。（臨時休校の場合もあります。）
② 校外活動については中止します。

4 登校後に上記3になった場合、屋内での学習を実施し通常通りの下校とします。

5 これらの対応は学校所在地の計測値とそれに近い測定地点の2か所の値をもとに判断し、対応は各学校ごととします。

【ヘイズに関する基準】

PM2.5			PSI		
0～55	普通		0～50	良好	
56～150	少し高い	屋外での運動を減らす	51～100	普通	
151～250	高い	向こう1時間外での運動を避ける	101～200	不健康	屋外での長時間または激しい運動を減らす
251 以上	非常に高い	外出や外での行動を最小限にとどめる	201～300	とても不健康	健：屋外での長時間または激しい運動を避ける 子：屋外での運動を最小限に抑える
			301 以上	危険	健：屋外での運動を最小限に抑える 子：屋外での運動は避ける

健：健康な人、子：子ども